

研究成果（品種）リーフレット

あきしずく

病気に強く栽培しやすい
ハトムギ新品種



あきしずくの穂

地域特産作物として、西日本を
中心に着実に栽培が広がっています。



農研機構



九州沖縄農業研究センター

あきしずく

「あきしずく」は病気に強く収量も多い、栽培しやすいハトムギです。

ハトムギの使い道は

ハトムギは古くから健康食材として知られ、漢方では「ヨクイニン」として滋養強壮に効くとされてきました。日本ではお茶、お米に混ぜての雑穀ご飯等に利用されてきました。



あきしずくの子実(左:殻付き粒 右精白粒)

倒れにくく栽培しやすく高収量

「あきしずく」は在来種のハトムギに比べて、主要病害の「葉枯病」に強く、背丈が低いため倒れにくく、栽培しやすい品種です。子実が穂から落ちにくいので、完熟してから収穫でき、収量も在来種より多いのが特長です。

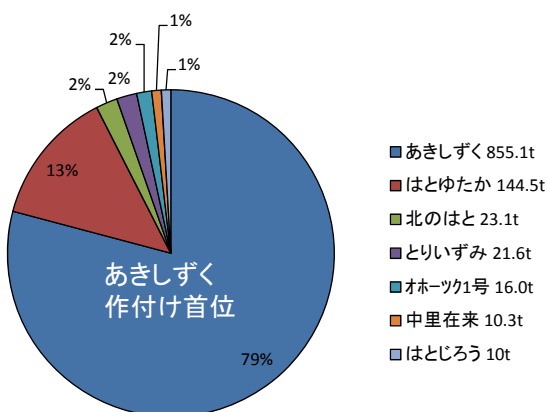


あきしずくの植物体と穂(囲み)

ハトムギのリーディングバラエティ

「あきしずく」は栽培しやすく収量が多いことから急速に普及が進み、今では全国の生産量の約8割を占めています。

品種別生産量ト



九州以外の各地でも製品化

「あきしずく」は九州の他、富山県などでも普及が進んでおり、各地で健康食品等の製品が開発されています。



各地で開発されている製品

お問合せ先

(独)農研機構 九州沖縄農業研究センター 広報普及室

Tel:096-242-7682 E-mail:q_info@ml.affrc.go.jp

www.naro.affrc.go.jp/karc/

九州沖縄農研 | 検索

(2013.08 作成)